

尾瀬ネットワーク通信

2001年4月30日 VOL.4, No.2(9)

尾瀬自然保護指導員ネットワーク



総会特別講演：管家博昭氏

尾瀬自然保護指導員ネットワーク

第2回総会開催

二〇〇一年度の総会が三月二十四日大宮ソニックシティで開催されました。会員数47名中20名が参加しました。主な議題は左記のとおり。

引き続き旧幹事に担当をして欲しいとの声があがりました。各幹事に今後の担当を引き受ける意志を確認のうえ、左記の十一名が幹事および会計監査に選出されました。

二〇〇〇年度活動報告(各担当幹事)

二〇〇〇年度会計報告(牛木)

同封資料参照

幹事改選

特別講演「博士山のブナ林保護と猛禽類からみた会津の自然」
講師：博士山ブナ林を守る会会長 管家博昭氏

幹事改選において、尾瀬ネットの活動としてはまだ足固めをする段階であり、

代表幹事 高橋喬

事務局長 椎名宏子

会計 牛木一朗

地域幹事 磯部義孝

小野寺利夫

佐藤信良

永島勲

本戸信男

山本誠剛

若松真

会計監査 島上健

二〇〇一年度の活動計画

の詳細については、時間内での話し合いが出来なかったため、その決定は新幹事に一任され、本号へ掲載することとなりました。主な活動内容は左記のとおりです。

- 会津バス添乗解説
- 群馬側入山指導
- 全修協ガイド
- 至仏山東面登山道調査
- 第2回指導員養成講座開催
- 尾瀬ネットワーク通信季刊発行
- 御池に案内所開設

詳細については各担当幹事の募集要項を参照のうえ参加申し込みのほどよろしくお願い致します。

アイドリングストップの呼びかけにも注力を

〜3選された代表幹事からのごお願い〜

早いもので、旧尾瀬の自然を守る会の解散、現在のネットワーク(以下NW)の

発足から4年が経過しました。その間、会津バス添乗解説、至仏山東面登山道利用実態調査、全修協尾瀬研修旅行のガイド、桐生市立12中学校の尾瀬入山事前学習への講師派遣、福島市立西森小の自然保護教育への講師派遣などの活動を行ってきました。

また、2年目からは「アイドリングストップ」のステッカーとチラシの配布を始めました。これは、尾瀬という狭いエリアでの活動にとどまらず、よりグローバルな視点から、地球温暖化防止へ少しでもお役に立てたらと、とくにマイカーで尾瀬を訪れるハイカーを

中心に訴えることにした活動です。

小世帯でおまけに活動資金も不十分なNWにとつては、いささか荷の重い活動目標かと思いましたが、いずれも指導員の皆さんの熱心なサポートと実践があつて、はじめて実現できました。紙面を借りて厚くお礼申し上げます。

群馬側で入山指導開始

また、二〇〇〇年度からは、新たに群馬側鳩待峠山の鼻〜尾瀬ヶ原でも一般のハイカーを対象に定点入山指導を開始しました。同年度の会津側の入山指導には、過去最高となる延べ69名の指導員が参加し、会津側の入山指導は定着した感があります。一方、群

馬側は初年度とあつてか、今一つ活動のポイントがしぼり込めず、PR不足も手伝つてか、残念ながら参加者はわずかでした。しかし、二〇〇一年度以降は、参加者も徐々に増加していくものと期待しております。

第1回養成講座の開催

昨年度のイベントで、もっとも特筆されるべきと思われるのは、「第1回指導員養成講座」の開催でしょう。9名の受講者の皆さんは、8月の炎天下を3泊4日の日程で、昼間はフィールドで、夜間は宿舎での座学とハードな講習を一人の落伍者もなく、無事に修了していただきました。講師の大

役は永島、磯部の両幹事にお願いしました。受講者募集案内からスケジュール、テキスト作成などの準備はすべて永島さんの手を煩わせました。磯部さんは、38度を越える発熱をおして頑

張つてくれました。

また、受講された方のほとんどは「山溪」か「岳人」の記事を見て募集されましたが、これらの山岳雑誌に養成講座の記事が掲載されたのは、事務局長の尽力によるものです。

修了者のなかには、早くも昨秋の会津側の入山指導に参加された方もあつて、今夏からのこれら若い人たちの活動が楽しみでなりません。古くからの指導員の皆さまには、ご指導のほどをお願い致します。

再任のあいさつ

今回の総会で、代表幹事に再任されました。振り返ってみると、事務局長の椎名さんと2人でNWの設立準備委員にされ、なんとかNWを発足させて、これで無罪放免と思いきや、私が代表、椎名さんが事務局長に選任(というより押し付け)されて2期4年たつてしま

いました。最初の約束では2年でした。2年目の総会で辞意を表明しましたが、無視されてしまいました。その後、幹事会などで機会あるごとに次期代表(の候補者)を見つけるよう、再三促しているのですが、一向にらちがあきませんでした。

私はどこかの国の前首相のように、代表の座にしがみつくと気は毛頭ございませんし、だからと代表を続けるつもりもありません。次の任期切れには、どのような形であれ、辞任しますのでよろしく。

さて、再び代表を引き受けた以上は、二〇〇一年度の活動計画の要点のみ、お伝えしておきます。「賛同いただければ幸いです。」

養成講座の開催

まず、継続活動として、第2回指導員養成講座の開催を計画しております。

できれば今後、毎年、10〜15名の若い人たちを養成して、ロートルは後顧の憂いなく人生にヒリオドを打ちたい、と思っております。高齢者がいつまでものさばっているようでは、NWに未来はないと思います。

至仏山調査

NWの発足以来、永島さんが熱心に取り組んでいる「至仏山東面登山道調査」が、節目となる5年目を迎えます。永島さんは毎年レポートをまとめていますが、今夏の調査後には、5年間の調査結果をまとめて結論から言いつつ、「再閉鎖」を環境省、群馬県などに申し入れるとともに、マスコミにも協力要請を行う予定です。

この運動については、NWだけではなく、大石先生の「尾瀬を守る会」(緑の地球防衛基金内)などとの共闘を既に申し入れて、賛同を得ております。

IT化の検討

NWとしては現在、間借りしているメーリングリストはあるが、ホームページを開設するに至っておりません。ボランティア団体にも、IT化の波は押し寄せております。例えば、二〇〇一年度の活動資金助成を申請している環境事業団の申請書類審査上の重点配慮事項には、「IT分野の発展に民間団体としての確に対処し、情報能力を高めるため、情報基盤の整備の支援」が挙げられています。NWとしても、二〇〇一年度内にホームページを立ち上げる方向で、具体的な検討に入りたいと思います。当然、若松さんを中心に実行委員会を設けることとなりますので、この方面に対する興味と知識、意欲をお持ちの方はふるってご参加ください。お問い合わせ、参加申し込みは若松さんまでどうぞ。

法人化の問題

一昨年の総会に諮って、時期尚早ということで反対されてしまいましたが、法人化(NPO)についても再検討を進めたいと思います。最近では、助成の申請などにあたって、法人格かどうか聴かれるようになりました。とくに任意団体への寄付行為に対する国税局のチェックが厳しくなり、助成団体の中には抜き打ち査察を受けたケースもあるとのことです。

NPO法の制度改変などをにらみながら、時期を見て法人化が可能ないように、準備を進めていきたいと存じます。ご意見をお寄せください。

アイドリング

ストップは重要

最後になりましたが、地球温暖化の防止は世界的な命題であるとともに、人類のひとりひとりに出来るこ

ともあります。しかし、NWの活動では「アイドリングストップ」の呼びかけは、ともすれば入山指導の次に位置付けられる傾向があるのではないかと思います。この活動は、バス添乗解説が苦手な人にも出来ず、

会津側、上州側を問わず、二〇〇一年度は「アイドリングストップ」も重点活動項目と位置付けてください。いささかオーバーですが、尾瀬から日本中、さらには世界中に向けて、アイドリングストップの重要性を呼びかけようではありませんか。

(高橋喬)

ニホンジカの 実態調査に参加して

日光国立公園内で、尾瀬地区のニホンジカが急激に増え始めたのは、一九八〇年代半ばごろのようです。周辺の松枝岐村・館岩村等での狩猟頭数も、一九九〇年頃から徐々に増え、今冬は一〇〇頭であったと報道されています。

実態を知りたいと考え、昨年七月、環境省より調査の委託を受けている小笠沢正昭氏(宇都宮大学教授)の行つ、尾瀬地区のニホンジカ生体状況と植生への影響に関する調査に参加してみました。

大江山湿原や尾瀬ヶ原下田代付近では、踏み付け跡掘り起こし跡を木道からも確認することが出来ました。沼山峠から下った長池では、ミツガシワやミスバシヨウの群生地に、直径十二メートル・深さ二十センチにも及び掘り起こし跡が無惨に

広がり、わずかな緑が残るだけの有様でした。

ビームライト等を使用し、夜の夜間調査では、尾瀬ヶ原一帯で一晩に二十八頭を数えました。下の大堀付近や中田代・下田代の林縁に多く、ほとんどがメスジカと小ジカの小群です。

教授の話では、尾瀬のニホンジカによる被害はまだ初期の段階であり、侵入ルートの特定・増加の原因の究明はこれからということでした。

このニホンジカによる被害は、尾瀬ネットとしても無関心ではいられない問題になりつつあります。対策その他について、皆様のご意見を伺いつつ尾瀬ネットができる活動について検討を本年度からはじめます。私たちの愛してやまない尾瀬をニホンジカの被害から守るため尾瀬ネットの方々や専門家と、共に考え活動していきたいと思えます。

(坂本敏子)

福島県側会津バス 添乗解説 活動のおしらせ

本年度の福島側の現地活動は左記の日程で開催いたします。

- 第1回 5/25(金) 27(日)
- 第2回 6/22(金) 24(日)
- 第3回 7/6(金) 8(日)
- 第4回 7/20(金) 22(日)
- 第5回 9/22(土) 24(日)
- 第6回 10/6(土) 8(月)

今年度は第3回の活動において田代山と帝釈山での研修会を予定しております。ふるつてご参加ください。参加希望者は参加可能な回を担当幹事磯部までお知らせください。

参加申し込み連絡先

磯部義孝
? FAX

宿泊先は「ひのき屋(0241-75-2115)」です。各回の初日の夕方17時までに宿泊先へ到着するようにご参集ください。初日の17時より翌日以降の打ち合わせ、尾瀬の状況の情報交換を行います。

食事については特に指定がない限り各回の初日の夕食より最終日の朝食まで準備する手配を取らせていただきます。事情により参加日程が全日程参加できない方は、参加申し込み時に食事回数についてお知らせください。

活動参加申し込みの締切りは、第1回の開催までに参加者の集計および宿の調整を行いたいため、5月12日(土)とさせていただきます。申し込み締切り日以降で第2回、第6回の活動に参加ができる人も随時受け付けてます。

例年同様、各回の参加者から班長の依頼をお願いします。ことにしたいと思います。

班長を指名させていただいた方は、活動の取りまとめをよろしくお願い致します。

本年度より御池に案内所を開設し、尾瀬についての相談を受け付けるテントの設置を企画しております。

いままですバス添乗活動中心のため、参加を見合わせていた方々にも、参加していただける場の提供になると考えております。バス添乗解説を不得手とされている方は活動のベースキャンプとなる案内所での活動に参加いただけたら幸いです。

(磯部義孝、佐藤信良)

群馬県側入山指導の 日程および実施要項

- 二〇〇一年度日程
- ? 7月13日(金) 15(日)
- ? 9月14日(金) 16(日)

実施要項

活動内容は鳩待峠より入山し、山の鼻自然研究園や

尾瀬が原湿原で入山者に定
点指導を行います。群馬側
の活動に参加希望の方は、
以下の項目を担当幹事山本
宛お知らせください。

・ 参加可能日

・ それぞれの回の現地
到着時間と到着日の
夕食希望の有無

宿泊場所は、一回とも
戸倉ブチホテル「アップル」
(? 0278-58-7052) 戸倉バ
ス停より鳩待峠方面に向か
い並木駐車場の上

参加申し込み連絡先

〒

山本誠剛

?・FAX

全修協添乗ガイド

昨年度は全修協よりのガ
イド申し入れが一回のみと
残念な結果に終わりました。
また担当を依頼させてい
ただいたにもかかわらず中

止となつてしまい、後日お
断わりさせていただいた指
導員の方々にはご迷惑をお
かけしました。本年度も要
請があればガイドを受け、
本会の活動としていきたい
と思います。

4月2日に高橋(喬)、本
戸が全修協を訪問し、ガイ
ドを引き受ける旨をお伝え
してまいりました。要請時
期、開催時期、開催回数に
ついては現在未定です。全
修協からは質の高いガイド
を依頼されていますので、
いつも現地活動に参加され
ている方々を中心に参加依
頼をさせていただきます。
(本戸信男)

至仏山

東面登山道調査

二〇〇一年度の至仏山東
面登山道実態調査(第5回)
および笠ヶ岳の植生調査
(第1回)を左記の通り実施
いたしますので、参加者を
募集いたします。

日程

8月3日(金)～5日(日)
2泊3日【雨天決行】
8/4(土)至仏山東面登
山道調査
8/5(日)笠ヶ岳植生調査

集合時間

8月3日(金)午後5時～
6時

集合場所

群馬県利根郡片品村戸倉
鳩待峠行きバス停前温泉
民宿「一仙」

宿舎

温泉民宿「一仙」
? 0278(58)7005

交通

元上越線「沼田駅」か
ら関越交通バス「大清水」
行きで「戸倉」下車

参加費

20000円(2泊6食付、
鳩待峠までのマイクロバ
ス代往復等を含む)戸倉
までの交通費は各自でこ
負担ください。

コース

戸倉⇨マイクロバス⇨
鳩待峠⇨山の鼻⇨(東面
登山道)至仏山⇨小至
仏山⇨鳩待峠⇨マイク
ロバス⇨戸倉(午後4時
頃)

戸倉⇨(マイクロバス)⇨
鳩待峠⇨オヤマ沢田代⇨
小笠ヶ岳⇨復路も同
じ

募集人員

5～6名

(注)8/4の至仏山東面
登山道調査のみの参加で
も結構です。

装備

登山の出来る支度と装備
雨具は必携、筆記用具

調査趣旨

平成元年より閉鎖されて
いた「至仏山頂」山の鼻
の東面登山道は、平成9
年8月1日に再開されま
した。高山植物の宝庫と
いわれる至仏山には、蛇
紋岩の厳しい環境の中で

氷河期残存植物等が数多
く見られます。5回目の
調査となる今年も東面登
山道の整備状況、入山者
の利用実態、植生復元状
況などを実態調査し、再
開による問題点や東面登
山道の在り方等を考てみ
たいと思います。前夜は、
自然保護政策の現状や至
仏山の高山植物の勉強会
等も予定しています。な
お、今年は5日(日)に至
仏山と同じ蛇紋岩質の
「笠ヶ岳」の植生調査も
行ないます。

申込手続

申込みの締切7月16日
(月)

参加希望者は、「八ガ
キ」に「至仏山東面登山
道実態調査参加申込み」
と表示し、住所、氏名、
電話番号、初日の一仙へ
の到着予定時刻、初日の
夕食の有無、笠ヶ岳植生
調査の参加有無を記入の
うえ、担当幹事永島宛お

送ってください。

参加申し込み連絡先

〒

永島 勲

?・FAX

募集定員になり次第、申し込みは締め切ります。参加申し込みの方には後日、ハガキで最終のご案内をいたします。

(永島勲)

第2回指導員養成講座

一〇〇一年度の「尾瀬自然保護指導員養成講座」を左記の通り実施しますので受講生を募集致します。

実施日

2001年8月23日(木)

～26日(日)3泊4日

【雨天決行】

募集人員

15名

応募資格

満18歳以上で、3泊4日の講座全日程を受講できる方及び本会の尾瀬自然保護指導員となつて、会の趣旨に沿つた活動をすすめる意欲のある方

集合日時

8月23日(木)午後4時集合
宿舎の民宿「一仙」

(注)登山の出来る支度と装備でご参加ください。

宿舎

群馬県片品村戸倉

民宿「一仙」

? 0278(58)7005

福島県檜枝岐村民宿

「ひのき屋」

? 0241(75)2115

講座内容

8月23日(木)宿舎にて受付、夕食後は自然保護等の室内研修戸倉(泊)
8月24日(金)戸倉⇨鳩待峠⇨アヤマ平⇨尾瀬ヶ原⇨山の鼻⇨鳩待峠⇨戸倉

(泊)

8月25日(土)戸倉⇨大清水⇨三平峠⇨尾瀬沿⇨大江湿原⇨沼山峠⇨松枝岐(泊)

両日とも昼間は実地研修、夕食後は尾瀬の自然等の室内研修

8月26日(日)宿舎にて修了式、松枝岐村の歴史・文化の見学、昼食後解散

講師

尾瀬自然保護指導員ネットワークの担当幹事3名

受講料

35,000円(宿泊費、食費)

現地での交通費、テキスト代、保険料等)予約金

として10,000円を7月

31日(火)迄に郵便局で払い込みください。

口座番号

00190-3-361980

加入者名

尾瀬自然保護指導員

ネットワーク

残金の25,000円は集合

日(8月23日)にお支払い

頂きます。なお、自宅⇨宿舎間の往復交通費は各自でご負担ください。

申込締切

「養成講座申込書」は2001年7月31日(火)迄に左記へ郵送ください。

〒100-0014 東京都千代

田区永田町 2-17-5-203

(株)SEC内

尾瀬自然保護指導員ネット

ワーク事務局「指導員

養成講座」係

? 03(358)10321

FAX 03(358)2178

(注)募集定員になり次第

申し込みは締め切ります。

受講者には後日「講座受付票」をお送り致します。

(永島勲)

尾瀬ネットワーク通信

季刊発行

前号でお知らせしたとおり今年度より「ネットワーク通信」を年4回定期発行することになりました。現

在印刷、発送とも一人で

対応しているため応援者を

募集致しております。一人

では限界があるため皆様の

協力なくして年4回の定期

発行は困難です。協力いた

だけの方は、若松までなる

べく電子メールにてご連絡

ください。

各号の内容と発行時期は

代表の案をたき台に、左

記のように考えております。

1月

年頭所感

(代表幹事・幹事・指導員)

前年の活動報告総括

4月

総会の記事

新年度の活動スケジュール

前年度会計報告

7月

会員のエッセイ特集

秋の活動予定

10月

夏までの活動の中間報告

至仏山東園道調査結果報告
養成講座の結果
研修会の会員レポート

皆さんの投稿をお待ちしております。原稿は事務局または若松宛に送ってください。一行工事詰め、ワープロ、手書き、いずれでも結構です。短信は八ガキでも可。封書の場合は「原稿」と朱書きしてください。原稿に付随した写真掲載を希望される方はできる限りネガをご同封ください。ネガは後日返却いたします。

電子メールでの投稿も歓迎いたします。電子メールでの投稿先は左記のメールアドレスで受け付けます。

(若松真)

スポーツ保険について

希望者にはスポーツ保険の加入を受け付けております。本会が利用しているス

ポーツ保険は現地活動を行う際に発生した事故等に対するの保険です。これまでどおり無事故で活動が行えば良いのですが、現地活動中に事故が発生した場合、早急に事務局までご連絡ください。折り返し事務局より手続きに必要な用紙を送ります。

現地活動には担当幹事が同行していると思えますので、担当幹事さんには現地での対応をお願い致します。

(椎名宏子)

会費納入のお願い

総会に参加された方は、後日の会費の納入の時間を省くために、総会会場にて会費および希望者にはスポーツ保険の加入料を納入手続きを取らせていただきます。ご協力ありがとうございます。総会に参加できなかった方々には会費納入用の振込

用紙を同封いたしました。未納入の方はお手数ですが、五月末までに納入手続きをさせていただきますようお願い致します。

振込用紙には氏名、現住所、電話番号をご記入ください。またスポーツ保険へ加入される方は年齢をお書き添えください。

年会費は3,000円、スポーツ保険料は1,400円です。

スポーツ保険は任意加入です。スポーツ保険の詳細につきましては事務局までお問い合わせください。

(牛木一朗)

使用済みテレカを事務局に送って!

緑の地球防衛基金(大石武一会長)では、使用済みテレホンカードを集めて、植林事業の資金の一助にしています。NWとしても協力したいと思えます。事務局宛に送ってください。

(特別講演要旨)

博士山のブナ林保護と

猛禽類から見た会津の自然

博士山ブナ林を守る会会長 菅家博昭氏

博士山での運動は、既に12年になる。会津若松市と尾瀬とを結んだ線上の中間は山岳地帯で、奥会津と呼ばれている。この地帯の最高峰が博士山(一四八二メートル)で、歴史的な伝承が残されている。大和朝廷が東日本に進出してきたとき、新潟県境から博士山に来て明神ヶ岳を経て会津盆地に入ったとされる。

建設への反対運動が続いている。

この山岳地帯に現在、緑資源公園(旧森林開発公園)が、飯豊山地と松枝岐を結ぶ大規模林道「飯豊」松枝岐線」を建設している。大規模林道の目的は、低利用広葉樹を伐採して針葉樹を植林することにある。このため、道路の周辺の伐採の規模は大きく、現在も林道建設への反対運動が続いている。とくに福島県が建設している会津高田町の広域基幹林道の林道分の伐採は一五ヘクタールだが、林道沿いは一五〇ヘクタール、二〇〇ヘクタール規模で伐採されている。同町の人たちが住民監査請求をしたが、却下されたため、工事差止め仮処分を起こして七年目になる。皮肉なことに、訴訟を起こしたとたんに建設予算が前だおして大幅に増え、工事は急ピッチで進められている。

博士山の北側、柳津町からは稜線沿いに登山道があり、例年、五月下旬に山開きが行われている。西側斜

面から北側にかけて、樹齢一五〇〜二〇〇年のブナの天然林がある。東側斜面は西から季節風が吹くため、表土がはぎ取られてしまうという日本海側特有の地形になっている。一九八九年に柳津町の国有林を伐採する計画が持ち上がった。伐

採予定地が、博士山登山口にある集落の水源林だったため、地元の人たちが反対運動に立ち上がった。この運動が報道されると、会津地方の山岳団体や植物研究家などを中心に、博士山ブナ林を守る会を結成。半年で一万人の署名を集めて、林野庁や前橋営林局に訴えた結果、伐採計画は中止された。

これとは別に、同じく八九年に大手建設会社が、昭和村でリゾート開発(ゴルフ場とスキー場)を計画した。私は専業農家だから、農地がなくなるのは困るので反対運動をした。博士山

にひとつがいのイヌワシが営巣していたので、これを守ってほしいと訴えた。その結果、開発の一時中止にこぎつけたうえ、その後のバブルの崩壊などで、九三年に完全中止になった。

こうした運動を行ってわかったことは、日本には現在、一五〇つがい・三〇〇羽のイヌワシが確認されているが、そのうち四分の一は福島県から群馬県にかけての越後山脈にいます。ということだった。もちろん尾瀬周辺にも生息している。

越後山脈にイヌワシが残った理由は、冬の間は人が入れない場所だからで、イヌワシは二月に産卵し、四月にふ化する。デリケートな繁殖期に、人が入ってこない場所だけに生息している。一方、クマタカは里山に近いところにも残っているが、日本の森の中には、えさになる小動物がいなくなってしまう。ブナ林を伐つ

て、冬、あたり一面が雪原になってしまつとウサギやヤマドリなど越冬する小動物がいなくなり、当然、猛きん類もいなくなる。

九七年に一三〇組のイヌワシを対象に行ったモニタリング調査では、巣立ったのはたった一五羽である。四年後に成鳥になるのは、二〇%といわれているからある年に突然、絶滅してしまつ確率は高い。繁殖率をなるべく落とさず、生息地は確実に守る—ということが望まれる。

(文責・高橋喬)

ブナを主役に絵本 〜東京電力が作成〜

東京電力では、子供たちに森や自然の大切さを伝えるとともに、環境学習の役に立ちたいと、小学校低学年を対象にブナを主役とした絵本「森のともだち」(写真)と同高学年向けの解



説本「森のともだち」ブナを知ろつ」を作成。全国の小学校に贈った。

東京電力は長年、社有地が約70%を占める尾瀬で自然保護に取り組んでいるが、こうした取り組みを通して子供たちが森や自然に興味を抱き、ひいては環境問題について考えるきっかけになればというのが今回の作成の狙い。

「森のともだち」は、ブナと森の動物のふれあいを通じて、ブナの森の果たす役割や森の四季の移り変わりをいきいきと描いている。この物語の作者は、尾瀬の自然保護にかかわりの深い

東京電力用地部の竹内純子さん。「森のともだち」ブナを知ろつ」は、豊富な写真やイラストでブナを中心に森や地球環境問題に関する情報を盛り込んでいる。

大人が読んでも役に立つ情報も多いので、親子で楽しんでみてはいかが。

問い合わせ先

東京電力用地部
竹内氏、青柳氏
? 03-4216-2938(直通)

(高橋喬)

尾瀬自然保護指導員
ネットワーク

〒100-0014

東京都千代田区永田町
一の一七の五の二〇三
(株)SEC内

電話 03-3581-0321
FAX 03-3581-2178

代表幹事 高橋 喬
事務局長 椎名 宏子

編集幹事 若松 真